

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果

本年4月17日（木）に、小学校6年生と中学校3年生を対象にした全国学力・学習状況調査（以下、学力調査）が実施されました。この調査には、学力についての「教科に関する調査」と、学習状況についての「質問紙調査」があります。

1 令和7年度の全国学力・学習状況調査の結果（国語・算数・理科）

【令和7年度全国学力・学習状況調査結果・平均正答率】

平均正答率	国語	算数	理科
本 校	やや高い	やや高い	やや高い
三重県	66%	57%	56%
全 国	66.8%	58.0%	57.1%

※本校の結果は全国平均と比較して「+10以上：非常に高い」「+5以上：高い」「0～+5：やや高い」「0：同じ」「0～-5：やや低い」「-5以下：低い」「-10以下：非常に低い」で表しています。

2 児童質問紙（顕著な部分のみ抜粋）

<読書・自然体験>

○1日あたりの読書量（やや高い）新聞を読んでいる（やや高い）読書は好きか（高い）

○自然体験（非常に高い）

<学習面>

○5年生の時授業でタブレット等 ICT 機器をどの程度使用したか（非常に高い）

○自分のペースで理解しながら学習をすすめることができる（非常に高い）

○楽しみながら学習を進めることができた（非常に高い）

○自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる（非常に高い）

○友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる（非常に高い）

◎話し合う活動を通して自分の考えを深め、新たな考えに気づく（非常に高い）

◎分からなかったことを見直し、次の学習につなげる（非常に高い）

◎友だちやまわりの人の考え方を大切にして協力しながら課題解決に取り組む（非常に高い）

3 各教科の課題と今後の対応について

全国学力・学習状況調査については国や県の平均と比較することを重視するのではなく、自校の児童のどの部分の学力が十分身につけていないのかを分析し、2学期以降の授業の改善をしていくのかを全学年の教員が意識の共有を行い、取組につなげています。

また、南が丘は小学校1校・中学校1校であるメリットを生かし、小中学校教員が集まり、小学校の結果・分析と中学校の結果・分析を持ち寄り、9年間の義務教育を通して、取り組みを行っています。（小中学校教員の研修会は21日に行われました。）

国語・算数・理科について本校として今後、通常の授業で力を入れていく必要のあるものを検討しましたが、以下はその一部です。

国語 インタビューについて問われている問題

(考察) 聞きたいことを聞き出すというインタビューの目的や具体的な場面を想像できなかったのではないだろうか。

(取組) 日常的にインタビューをする機会を多くする。また、事前に具体的な計画を立て、帰ってくる答えなど、話し合いを重ねておく。

算数 分数の計算を説明する問題

(考察) 小数の計算はできるが、分数の計算が十分に理解できておらず、そのため、説明することができないのではないか。

(取組) ペアやグループ学習でさらに日常的に説明し合う機会を増やす。獲得した知識をもとにアウトプットする機会を増やす。

理科 身の回りの金属で電気を通すもの・磁石にくっつくものがあることを問う問題

(考察) 「1円玉＝アルミニウム」「10円玉＝銅」など身近なものとの金属が一致していなかったのではないか。

(取組) “電気を通す”と“磁石につく”は別の性質であることをはっきりと確認しておく必要がある。それまでの学年で1円玉や10円玉を使う機会があるがそこでしっかりとそれらはすべて金属であると押さえておく。この問題に限らず、実験から分かることを一面的なことのみにとどまらず、多面的にとらえることができるようにしていく。

4 出題の範囲や内容については以下のとおりでした。

・ 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

・ 出題内容：下記の(1)と(2)を一体的に問う。

(1) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

(2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容

【全国学調について】この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で行われています。また、調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

5 将来、社会を担う子どもたちに今、どんな力をつけていくか…

異常なほどの高温、大水害・大地震などの発生、食料不足、紛争、組織的な犯罪…現代の世の中はこれまでに経験したことのない多くの問題にぶつかっています。子どもたちが大人になる時代にはさらに様々な問題が起こってくると予測されています。今、子どもたちが基本的な知識を獲得した上で、必要な情報を収集・整理し、自分の考え持ち、他者と共に考え、解決に向かって行こうとする姿勢が求められています。すなわち、学力の様に数値で表すことのできない力（非認知能力）が大切になるということです。非認知能力とは、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力のこと全般を指します。OECDでは、非認知能力に値する力を「社会情緒的スキルと呼んでいます。本校においてもこれらのことを意識しながら、子どもたちが自分で学習内容・学習形態・学習方法を自己決定する授業の導入に向けて、職員が研修を重ねながら、授業改善・改革に向けて一生懸命取り組んでいるところです。授業の様子は2学期もできる限り、HP上に掲載していきますので、子どもたちの表情についても見ていただけますと有難いです。